

災害なんかに負けない地域をつくろう！

北区川中学区 災害避難行動マップ

この災害避難行動マップは、名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」をもとに、大規模地震が発生した場合を想定して、川中学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所などについて話し合い、作成したものです。

この災害避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

パソコンやスマートフォンでも
防災マップを見るることができます。

<http://www.platform.or.jp/map/sp/4/164/>



役に立つもの

地下式給水栓

地下式給水栓は、災害時に地域のみなさまが自操作をしていただくことで、飲料水を確保することができる災害用のじゃく口です。



下水道直結式仮設トイレ

マンホールに直結できる仮設トイレです。
避難所のトイレ不足を補います。



コンビニエンスストアなど

このステッカーの貼ってある店舗は、「災害時帰宅支援ステーション」として、公共交通機関が不通となったとき、徒歩で帰宅しようとする人たちを支援する店舗です。トイレや避難スペースの提供など災害時に可能な範囲で支援協力が得られます。

地域防災協力事業所

災害時に地域に対して支援協力してくれる事業所です。

公衆電話

NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。ただし、国際電話は使えません。

気を付けて!!

1. 空き家

耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険あり

2. 古いブロック塀

大きな地震では倒壊する危険があるため近づかない

3. 狹い道

近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通りにくくなる可能性あり

4. 電線(高圧線)

切れた電線は停電時でも感電の危険があります。絶対に近づかない。また、高圧線の落下にも注意

5. 瓦屋根

大きな揺れの際には危険。瓦屋根のある家屋に住んでいる人は、あわてて外に飛び出さない

自治会の一時集合場所

自分の自治会の集合場所を記入しておきましょう



知っておこう 道路閉塞率について

南海トラフ巨大地震の名古屋市の被害想定(あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震)をもとに、地震の揺れによって建物が倒壊し、道路がふさがって通れなくなる可能性を評価したもの。

※液状化を考慮して計算された建物の全壊率から、沿道の各建物高さと道路の幅員(歩いて避難する場合には、最低2mの道路幅が必要と設定)を考慮して、道路が閉塞する確率を算出。
出典：震災に強いまちづくり方針

40~70%のエリア

この想定はあくまで一定のデータ・条件をもとに統計的に算出されたものであり、想定にとらわれすぎないように注意しましょう。

指定緊急避難場所・指定避難所

指定緊急避難場所…命を守るために、災害の危機からまずは逃げるための場所

指定避難所…自宅が被災して帰宅できない場合、一定期間、避難生活をおくるためのところ

施設名所	所在地	指定緊急避難場所	指定避難所
①川中小学校	福德町5-52	2階以上 グラウンド	×
②川中コミュニティセンター	福德町4-37-8	2階以上	×
③中切集会所(旧川中学区集会所)	中切町2-21	○	×
④城北つばさ高等学校	福德町広瀬島350-4	○ グラウンド	×

※大規模な火事が発生した場合は、広域避難場所に避難しましょう。

●凡例

● 一時集合場所	大きな災害がおこった時、地域での安否確認や情報収集、初期消火・救助活動などの指揮場所です。
● 指定緊急避難場所 (洪水・内水氾濫)	● 指定緊急避難場所 (地震の揺れ)
● 指定避難所	● 広域避難場所
● 公衆トイレ	● 地域防災協力事業所
● 地下式給水栓	● 下水道直結式仮設トイレ マンホール
● 応急給水施設	● AED (自動体外式除細動器)
● 災害用応急井戸	● 公衆電話
● 学区境	

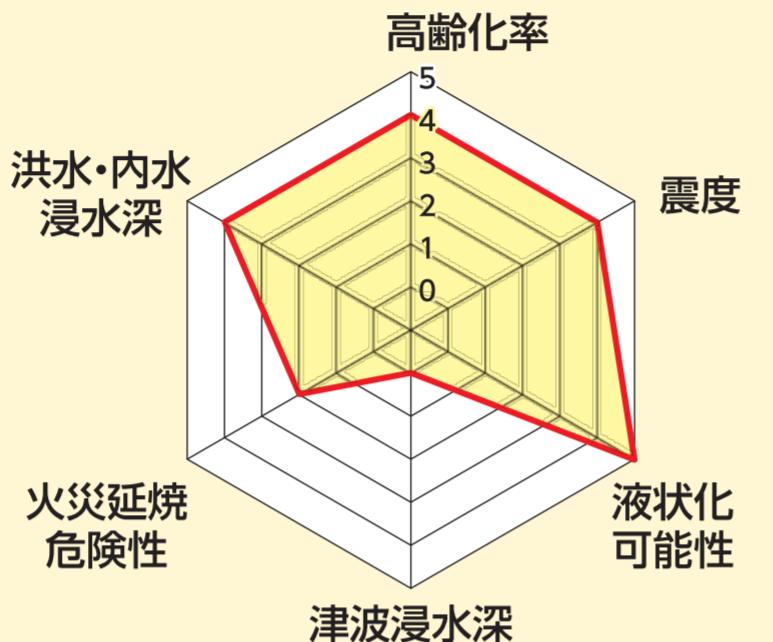
北区川中学区 災害時の特性

川中学区では、南海トラフ地震が発生した場合、震度6強の揺れが起こる可能性が想定されています。火災が発生した場合は、燃えて倒壊する建物が道を塞いだり、強い熱風が吹き荒れる懸念があります。また、液状化現象が起こる可能性が高い箇所もあり、建物が傾いたり、泥水が溢れだし道を通ることができなくなる可能性があります。

また、大雨等により矢田川がはん濫した場合は、2.0mから3.0mの浸水が想定されています。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	29.5%	4
震度	6強	4
液状化可能性	全域で大～中	5
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	100～500棟未満	2
洪水・内水浸水深	2.0m～3.0m未満	4



※各指標の5段階の基準は、地区防災カルテに基づきます。

地区防災カルテは名古屋市公式ウェブサイトをご覧ください。

地区防災カルテは
こちらからアクセス



普段からの備え

家族や自治会で話し合うなど

日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

▶ 建物を耐震化する。

- 昭和56年5月以前に着工した住宅には助成制度があります。

▶ 家具を固定する。(転倒防止対策)

- 家具に押しつぶされたり、避難の妨げとならないよう家具等を固定しましょう。

▶ 非常持出品・備蓄品を準備しましょう。

- 水や食糧、携帯用トイレ等の備蓄品を1週間分、
そのうち3日分は非常持出品として持ち運びができるようにしましょう。

▶ 安否確認方法を決めておく。

- 災害用伝言ダイヤル「171」や災害用伝言板サービスを確認しておきましょう。
(毎月1日・15日、正月三が日、防災週間などに体験できます。)

▶ 指定緊急避難場所、指定避難所、自治会の一時集合場所等を確認する。

- 避難場所等を確認しておきましょう。また、避難するルートも確認しましょう。



地震発生! 川中学区災害時の対応ルール

激しい揺れ

- 頭を守り、倒れるもの・動くものから離れる
- 揺れがおさまるまで体を低くして動かない
- 避難口を開ける



すぐに家から飛び出さない
冷静に!!

揺れがおさまった

- 怪我をしないように靴やスリッパを履く
- 火の元の確認、出火したら初期消火
- テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから正しい情報を入手
- 電気のブレーカーを落とす、ガス・水道の元栓をしめる
- 被害が無ければ、「タオル」を玄関のわかりやすい場所に提示し、周囲に無事であることを伝えましょう。



隣近所で安否確認・救助

- 火災が起きたら、隣近所で協力してすぐに消火しましょう
- 組の皆さんで協力して安否確認をしましょう(高齢者や障害者の安否確認)
- 救助が必要な人を見つけたら、周りに声掛けをして助けましょう



一時集合場所へ集合

- 各自治会の一時集合場所へ集合し、自治会長に安否確認の状況や被害状況を報告
- 救助活動や一人で避難することが難しい方の避難誘導に協力



付近で火災等の危険発生

- 火災が延焼拡大した場合は、広域避難場所などの身を守ることができる場所へ避難
- 火災を避け、風上に逃げる
- 倒壊家屋が道を塞ぎ、火災が延焼するので注意



余震からの避難

- 周りに倒壊しそうな建物がない小中学校のグラウンドなどの広い空地へ避難
- 建物の倒壊等に注意



危険がなくなったら自宅での滞在が可能か



在宅避難

指定避難所

自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!

- 避難所では不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋崩壊などの危険がない場合は、自宅で避難生活を続ける“在宅避難”を考えましょう
- 災害救助地区本部(川中小学校)に在宅避難を知らせよう!
- 周囲で声掛けし、助け合おう!



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、下記のような高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日ごろから地域でお互いに顔の見える関係を構築し、地域みんなでいち早く避難行動がとれるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など

対応方法



移動が難しい方

例えばこんな方

普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど

対応方法



住民からのメッセージ

学区の訓練と一緒に参加しましょう

日頃からのつながりを大切にしましょう

断水に備えてトイレ対策もしておきましょう